

(別添4)

【山形県鮭川村】

1人1台端末の利活用に係る計画

1. 1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

『平成29・30・31年改訂 学習指導要領』を踏まえ、令和3年1月26日、中央教育審議会から『「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～答申』が示された。

その中において、社会の在り方が変わる「Society5.0時代」やコロナ禍など「予測困難な時代」に対応できる教育の必要性が掲げられている。

今後は、一人一人の児童生徒が、自分のよさや可能性を認識するとともにあらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え豊かな人生を切り拓き持続可能な社会の創り手となることができるようにする教育が求められている。

この答申を受け、鮭川村においては「第3次鮭川村教育振興計画～鮭っ子育成プラン～」を策定した。本計画において、「基本方針2 自ら学び自ら考える子どもを育成する」を定めると共に、「重点施策4 根拠をもって、理論的に説明する力の育成」を掲げている。この重点施策4の中において「ICTの多様な活用により情報活用能力を育成する」「ICTを多様に活用した授業・活動の充実」が記載されている。

また、令和3年5月には、GIGAスクール構想の実現に向けて「鮭川村ICT教育基本構想」を策定した。

上記の方針を基に、これまで整備してきた電子黒板や1人1台端末、無線LAN等の環境を最大限に活用し、誰一人取り残さない個別最適化された授業の実現を図っていく。

そして、鮭川村がめざす子ども像（主体的に学び、自らの考えを伝えるとともに、他社の考えを理解し、多様な人々と協働して問題を解決する子ども）の育成を、実現していく。

2. GIGA第1期の総括

(1)施設整備に対する総括

①経過

令和2年度から、GIGAスクール構想に対応した学習者及び指導者用端末と、通信ネットワーク設備の整備を行った。併せて、全ての普通教室と特別教室の一部に対し、電子黒板を整備した。

i 端末について

学習者及び指導者用端末は、校務用パソコンとの整合性や実績を鑑み、Windows端末を導入した。

ii ネットワークについて

文部科学省が掲げる「当面の推奨帯域」を実現するため、令和6年度においてインターネット契約を増強するとともに、ネットワークアセスメントを実施した。その結果、文部科学省が掲げる当面の推奨帯域は、達成していることが判明した。

iii その他設備について

鮭川中学校において、令和6年度の教育用情報機器更新の際に、普通教室前にプリンターを設置した。これにより、生徒が作成した委員会資料や進路情報などを生徒自身が必要に応じて印刷できるようになった。

②課題と対策

i 端末について

Windows端末の活用において、教育現場から下記の意見が挙がった。

◇ 動作の遅延等が多く、活用に課題を感じる。

◇ 県内高等学校ではChrome端末を採用しており、小中校の一貫性が心配。

また、GIGAスクール構想第2期における山形県内の動向を調査した結果、約半数の自治体がChrome端末を選択予定であることが分かった。

これらの結果を受け、鮭川村ICT活用推進委員会において検討を重ね、GIGAスクール構想第2期で選定する機種を、Chrome端末とすることに決定した。

今後は、OS変更に伴う操作習得のため、教育現場に対して、ICT支援員を活用したサポート体制の更なる強化が必要となってくる。

ii ネットワークについて

ネットワークアセスメントの結果において、校内の一部で無線LANの電波強度の不足や電波干渉による電波の弱体化が、報告された。

今後は、ネットワークアセスメント受託業者及びICT支援員と協議を重ね、更なる利便性の向上を検討していく。

(2)授業支援体制に対する総括

①経過

GIGAスクール構想の実現に向け、教育現場におけるICT機器の活用を円滑に促進するため、ICT支援員の増員とGIGAスクール運営支援センターの設置を行った。

これにより、日常的なICT支援だけでなく、プログラミング教育等の専門的な指導の強化、トラブル対応の体制を構築することができた。

今後も、ICT支援員及びGIGAスクール運営支援センターと連携を強化し、教育現場への支援の更なる充実を加速させていく。

②課題と対策

学校・教職員間において、ICT活用技術の格差が見受けられる。

この課題を解決するため、ICT支援員を最大限に活用するとともに、鮭川村ICT活用推進委員会で連携を図り、小中一貫した鮭川村のICT教育の向上とGIGAスクール構想の実現に向けて、尽力していく。

児童生徒及び教職員が、負担感なく1人1台端末を活用していくためにも、まずは「学年に応じ週1回以上活用」という目標を設定する。

最終的には、1人1台端末の「週3回以上」の積極的な活用を実現し、個別最適化・協働的な学びを充実させていく必要がある。

そのためには、教職員のICT活用技術向上が必須となるため、ICT支援員を活用した定期的な講習会等を開催していく。

(3)授業・学習内容に対する総括

①経過

鮭川村では、小中学校に1人1台端末を整備するとともに、全ての普通教室と特別教室の一部に対し電子黒板を整備した。これにより、学校での日常的なICT機器の活用は、大幅に促進された。

i 児童生徒の活用

家庭学習においては、長期休業期間は学年別で、平日は希望者が端末を自宅に持ち帰ることで、自主学習への取組みを促した。その際は、eライブラリアドバンスなどの学習アプリを活用している。

ii 教職員の活用

Teamsを活用するなどして、ペーパーレス・シームレスな情報共有を実施している。具体的には、職員会議資料をPDFで共有することで、準備時間の短縮や印刷費の節約を実施した。

②課題と対策

i 児童生徒の活用

(一)学習内容について

調べ学習の技術不足を感じている。例えば北海道の自然環境を調べる場合、そのまま「北海道の自然環境」と検索ボックスに入力する生徒が多い。別のキーワードを活用した検索など、もう一步踏み込んだ検索手段を教育する必要がある。

文書作成の際も、書体や段落が統一化されておらず、体裁を整えるためのスキル不足を感じている。

ゲームやチャット機能を不適切に使用する児童生徒もおり、情報モラル・セキュリティ意識の向上を図る必要がある。

これらの諸課題を解決するためには、発達段階に対するICT機器の適切な授業内容と活用頻度の設定が必要である。

今後は、鮭川村ICT活用推進委員会で、学年毎に習得すべきICTスキルをまとめた「ICTスキル表(学年別)」を作成し、発達段階に適した適切なICT教育を実施でききるよう協議を重ねるとともに、教育内容の充実化を図っていく。

ii 教職員の活用

教職員間のICT活用技術の格差を解消すると共に、端末の活用や家庭学習の在り方、働き方改革、不登校児童へのICTを活用した対応などを、教職員自身がスキルアップを実施する必要がある。

これらの諸課題については、鮭川村ICT活用推進委員会で協議を重ねるとともに、ICT支援員を活用した研修会を実施するなど、更なる支援の充実を図っていく。

iii 保護者の理解

家庭教育の方針で、自宅ではインターネットに繋がらない児童生徒が数名いる。

これからの「Society5.0時代」・「予測困難な時代」の中においても、子どもたちが逞しく生き抜いていくためには、子どもたちがICT技術を十分に習得する必要がある。

そのためにも、学校・教育委員会が一体となり、鮭川村ICT活用推進委員会で協議を重ね、保護者に対するGIGAスクール構想の啓蒙・啓発を図っていく。

3. 1人1台端末の利活用方策

「教育DXに係る当面のKPI」に基づき、ICT支援員を最大限に活用し、下記の事項に取り組んでいく。

(1) 1人1台端末の積極的活用

- ① 1人1台端末の日常的な活用の強化（週3回以上活用）
- ② 教職員に対する継続的なICT研修の実施
- ③ 情報通信技術支援員（ICT支援員）の継続配置と強化
- ④ デジタル教科書の実践的・日常的な活用

(2) 個別最適・協働的な学びの充実

- ① 児童生徒が自分で調べる場面において、1人1台端末を週3回以上活用
- ② 児童生徒が自分の考えをまとめ、発表・表現する場面において、1人1台端末を週3回以上活用
- ③ 教職員と児童生徒のやりとりにおいて1人1台端末を週3回以上活用

(3) 学びの保障

- ① 希望する不登校児童生徒へ端末を活用した授業への参加・視聴の機会の提供
- ② 希望する児童生徒への端末を活用した教育相談の実施
- ③ 外国人児童生徒に対する学習活動等の支援への端末活用
- ④ 障害のある児童生徒や病気療養児等、特別な支援を要する児童生徒の実態等に応じた端末活用と支援
- ⑤ ICT支援員・GIGAスクール運営支援センターの更なる活用による効果的な授業の実施

(4) その他鮭川村で取り組む事項

- ① 学年毎に習得すべきICTスキルをまとめた「ICTスキル表（学年別）」を作成し、発達段階に適した適切なICT教育を実施。
- ② 先行自治体や全国の「リーディングDXスクール」指定校からの成果の導入
- ③ 情報モラル・セキュリティ意識の教育
- ④ 最上管内市町村と連携・情報交換・事例検証
- ⑤ OS・アプリケーション・学習用eポータルの管内動向の調査と選定
- ⑥ 全国学力・学習状況調査のCBT化の円滑な実施
- ⑦ MEXCBTの効果的な活用の検証
- ⑧ 教育DXに係る当面のKPIの達成